



No.514

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

理事長 横山裕行

〒466-0061 名古屋市昭和区御器所町字木市29番
国立大学法人名古屋工業大学 校友会館内

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2023 7-8 月号

【2023年度定期総会報告】

【ホットライン】

表彰者紹介

【交流コーナー】

鋳物の歴史(その1)

卒業して60年

【新聞記事コーナー】

中日新聞

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース



2023年度定期総会・会員総会・特別講演会 報告

2023年5月27日(土)に、2023年度名古屋工業会、定期総会、会員総会、特別講演会そして懇親会を開催しました。5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染法上の扱いが軽減され、ようやく「コロナ前」の水準で開催することができました。懇親会を含めてすべて開催できたのは、2019年度以来となります。なお、御来場できない会員の方々に配慮し、YouTubeによる中継を行いました。

定期総会

一般社団法人名古屋工業会定期総会は、名古屋市東区のメルパルク名古屋2階の平安の間において、13時30分から開催しました。定期総会は、仁科常務理事の司会で開催し、加川理事長を議長として、成立状況の確認、議事録書署名人の指名を行いました。

議事は、第1号議案「2022年度事業報告及び収支決算案について」、第2号議案「2023年度事業計画及び収支予算案について」、第3号議案「代議員の選任について」、第4号議案「役員の選任について」の順に審議し、各議案とも全会一致で原案どおり議決されました。

最後に、3期にわたり理事長を務めた加川理事長から退任の挨拶があり、閉会しました。

会員総会

初めに、定期総会直後の理事会で選任された新役員体制の紹介があり、新たに選任された横山裕行理事長から挨拶がありました。所用で欠席した名誉会長である学長に代わり、河邊伸二学長特別補佐から挨拶がありました。

その後、定期総会の決議事項の紹介、退任役員への感謝状の授与と代表の挨拶、叙勲者への記念品贈呈、卒満者の紹介がありました。

最後に2022年度の名古屋工業会の活動を紹介するスライドが上映され終了しました。

特別講演会

一般社団法人日本鉄道電気技術協会顧問の下前哲夫氏(1964年電気工学科卒、66年修士修了)による「新幹線技術の生い立ち」と題した講演がありました。東海道新幹線が開業にこぎ着けるまでの技術開発の過程とそれを実施した研究者について、詳細な講演がなされるとともに、その後の新幹線開発についても紹介がありました。新幹線を実現させた技術者の取り組みに参加者一同、改めて感銘を受けました。

懇親会

3年ぶりとなる懇親会は、総会参加者のほとんどが参加し、旧交を深めました。最後に学歌を合唱、加川前理事長の音頭で3本締めを行い、盛会のうちに終了しました。

表紙写真説明

「丘虎の尾(おかとらのお)」

撮影者 名古屋工業会事務局

2023年度 定期総会 次第

1. 議 事

(決議事項)

第1号議案 2022年度事業報告及び収支決算案

第2号議案 2023年度事業計画及び収支予算案

第3号議案 代議員の選任について

第4号議案 役員の選任について

(報告事項)

第5号議案 その他

2023年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 一般社団法人名古屋工業会理事長

2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学長

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事

イ 叙勲受章者へ記念品贈呈（敬称略）

下村和生

ロ 名古屋工業大学卒業満70、60、50、40周年の会員へ記念品贈呈（敬称略）

(70年—昭和28年卒) —25名

A 加藤鉦一 始2名	M 船橋鉦一 始4名	E 犬飼英吉 始5名	W 磯部博一 始3名
D 高橋 治 始5名	Y 安藤陽一郎 始4名	K 児島昭夫 始2名	

(60年—昭和38年卒) —66名

C 丸山勝彦 始7名	A 吉永 深 始6名	M 後藤田啓造 始11名	E 小田切通安 始6名
W 井塚淑夫 始12名	D 梶原健弘 始13名	Y 恒川宗久 始2名	K 川内 昌 始9名

(50年—昭和48年卒) —76名

C 樫尾恒次 始14名	A 西村雅史 始4名	M 伊藤陽一 始7名	E 市原正樹 始8名
Es 北村 正 始5名	W 浅井幹夫 始10名	D 荒木修喜 始6名	G 今井伸一 始2名
Y 佐藤敬蔵	K 井上紀夫 始8名	F 西村良博 始6名	B 遠藤真治 始5名

(40年—昭和58年卒) —161名

C 馬越陽一郎 始22名	A 井戸田秀樹 始13名	M 中根浩隆 始31名	E 村松英男 始19名
Es 高橋賢一 始2名	W 伊藤健一郎 始8名	D 新美則明 始19名	G 岩田 努 始7名
Y 中島和彦 始10名	K 久保 裕 始5名	F 今井田孝行 始9名	B 長田吉紹 始5名
J 宇野誠一 始11名			

ハ 特別講演

講師：下前哲夫 氏（E39）一般社団法人日本鉄道電気技術協会顧問

演題：「新幹線技術の生い立ち」

5. 懇親会

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会

理事長 横山裕行 (K49)

さきほど理事長に選任されました横山裕行です。よろしくお願いします。

理事長就任にあたり工業会の運営について一言述べさせていただきます。

さて、理事長の責務を果たすうえでの私の心構えとしてまずは工業会員である卒業生や在学生の皆さんが「笑顔になれる」ことを目標にしたいと思います。

そのためにまずは、会員の支援についてです。

工業会の会員は在学中の学生、現役の社会人、企業を退職された方々の3層に分けられます。在学中の学生会員の皆様には、豊かで実りある学生生活が送れるように支援したいと考えております。例えば、研修の補助、奨学金の支給、クラブ活動、工大祭の支援などを、学校を通じて行っていきます。また、学生がスムーズに社会生活、企業生活に入っていくための学ぶ機会づくりや支援を大学とも相談しながら進めていきたいと思っています。次に現役の社会人です。現役の方は、多忙で行事への参加もままならないかもしれませんが、単科会とも連携しながら企業や組織の枠を超えて交流できるようなサポートを行っていききたいと思います。そして、企業などの第一線を離れたOB・OGです。その中には多様な趣味を持たれている方がおられますので、その交流などを行いたいと思います。また、この世代は経済的に比較的余裕のある方もおられますので、大学が求める寄附などもお願いしていきたいと思っています。

2つ目は、学校との協調による様々な支援です。

現在、名工大は、「心で工学」というキャッチフレーズのもとアートフルキャンパスの活動を始めておられ、ブランド力向上に努められております。工業会としては、名工大が今後とも社会で「使える」「活躍できる」優秀な人材を輩出し続けていくため、企業の方々とともに支援していきたいと思っています。現在、地元大手企業でも5年で約3割の新入社員が退社してしまうという実態があります。理由は様々ですが、学生側は「こんなはずじゃなかった」という想い、企業側は「何でこんな事ができないのか」等、お互いに不幸な理解不足が一因のよう



です。こういったギャップを解消すべく、卒業生がトラブルなく社会生活に入っていけるサポートを大学とも連携して何か出来ないか、相談していきたいと思っています。

また、大学への財政的な支援も引き続き進めていきます。大学側には様々な情報発信などブランドバリューを高めることをお願いするとともに、工業会としても卒業生ネットワークを広く、太くすることで寄附意識の醸成に努めていきます。

3つ目に会員間の「きずな」を太く、強くすることです。

現在、個人情報保護という観点もあり、名簿をつくるのが難しくなっています。しかし、連絡網を作っていないと、支部の活動でも、単科会の活動でも、会としての力が落ちてしまいます。将来に亘って活発な工業会活動を継続するためにも会員の掌握率を上げることを大学とも連携し工夫しながら実施したいと思います。

現在は、卒業生の2割程度しか工業会の正会員になっていません。多くの卒業生が大学への寄附など何かサポートしたいとは思っていますが、敷居の高さなどを理由に結集できていないというのが実態かと思っています。今後、卒業生の仲間を広げていくことは会の活動の活性化になりますし、大学への貢献にもつながるのではないかと考えています。この仲介役となるのが工業会活動であり、支部会、単科会活動を核となって進めていただいている皆様だと思っています。是非、この絆を広めていきましょう。

最後になりますが、名工大の英文の頭文字はNITです。これを工業会は、N=「仲間と」、I=「いつまでも」、T=「つながろう」と言い換えたいと思います。この工業会版NITの旗印のもと新役員一同、頑張りたいと思います。

皆様の御協力と応援をお願いいたします。

学長特別補佐挨拶

国立大学法人名古屋工業大学学長特別補佐
一般社団法人名古屋工業会副理事長
河邊 伸二 (A59)

皆様、こんにちは。名古屋工業大学長木下隆利先生に代わりまして、学長特別補佐で、卒業生連携室長兼基金室長の河邊伸二がご挨拶いたします。本日は、名古屋工業会総会の開催おめでとうございます。

最初に、大学の近況についてお話し致します。

名古屋工業大学は、一世紀を超えて、中京地域の産業界とともに歩み、我が国屈指の工業大学へと成長しました。現在、産業界との結びつきはますます深まっており、産業界の要望に基づく教育改革を行っています。

従来の高度工学教育課程に加え、新たに設置した創造工学教育課程から、2022年3月に85名が第1期生として旅立ちました。就職率100%でした。また、2022年4月に夜間主課程である基幹工学教育課程に、全国の高校・工業高校から21名が入学しました。基幹産業を担うエンジニアを目指しております。このように工学部は、高度工学教育課程、創造工学教育課程、基幹工学教育課程の3つの教育の枠組みにより成り立っております。一方、ドクターコースは1つの工学専攻に統合し、研究分野の異なる教員による複数教員指導体制のもと、異分野融合型のイノベーションリーダーを育成しています。また、整備が進むアートフルキャンパスをプラットフォームとして、「心で工学」を行動理念とする工学エリートを社会に送り出しています。

ここで、アートフルキャンパス構想についてスライドを用いて紹介します。アートフルキャンパス構想検討チームの説明に基づき紹介します。1905年の創設以来、産業基盤の創出、産業人の育成を担い、御器所キャンパスは、そのプラットフォームの役割を果たしています。この高度な工学の基盤であるキャンパスに、愛知県立芸術大学の協力のもと、アートによる風を取り入れ、芸術に親しむことにより、「心の豊かさ」を育んでいきます。

キャンパスのいたる所に、絵画、彫刻などのアート作品を展示しております。また、愛知県立芸術大学の芸術作家と、名古屋工業大学の美術部やソーラーカー部が、協働制作プロジェクトを行っています。さらに特



別体験プログラムとして、名古屋工業大学の学生が愛知県立芸術大学に出向き、愛知県立芸術大学の講師の指導の下、紙漉き体験を行いました。

続いて、基金室長として、大学基金についてお話し致します。

2022年度に個人、団体合わせて473件、6,048万円を大学にご寄附いただきました。多大なるご支援に心より感謝申し上げます。本日ご参加の名古屋工業会大阪支部の方からも多額のご寄附をいただきました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

大学基金は、学生への支援、国際交流の支援及びご指定の事業や課外活動などの特定基金に活用しております。また先ほど紹介しましたアートフルキャンパスに活用するため、アートフルキャンパス整備基金を設けております。名古屋工業会からも多大なご寄附いただき、感謝いたしております。

2023年度には、新たな事業として、特定基金の女性活躍支援基金を設置し、女性工学人材の活躍を支援いたします。また、一般基金を活用した国際学会発表支援事業を実施し、学生の国際学会での発表を支援いたします。

今後も基金による支援を充実していく予定ですので、名古屋工業大学基金へのご支援を賜いますよう、よろしくお願い申し上げます。名古屋工業会の卒業生の方々のご寄附は、大学支援の支えになっています。引き続き、名古屋工業大学基金へのご支援を賜いますよう、重ねて、何卒よろしくお願い申し上げます。

名古屋工業大学は、「心で工学」を合言葉に、ものづくり・人づくり・未来づくりに励んでまいります。今後とも皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

以上、簡単ですが、大学の近況のお話と基金のお願いにて、ご挨拶とさせていただきます。

第3号議案 代議員の選任について
第4号議案 役員の選任について

2023年度 役員名簿

理事(10) ○ 横山裕行 K49 ○ 小山裕康 A54
○ 堀口大輔 C59 ○ 岩田忠三 M59
河邊伸二 A59 仁科 健 B50
○ 浅井英利 E58 加川純一 K49
○ 大鑄史男 F49 ○ 名和修司 C59

監事(2) 森 秀樹 D52 川村信之 E53

相談役(8) 藤原俊朗 K31 牛込 進 Y33
篠田陽史 M33 二杵幸夫 K39
木越正司 C44 水嶋敏夫 M42
○ 岡崎格郎 A46 ○ 内藤克己 A43

参与(5) 張田吉昭 M43 北村 正 Es48
水谷尚美 D42 ○ 森川民雄 W45
○ 大鹿秀正 F47

顧問(7) 阿部完二 D41 宇佐美貞夫 F40
北村健治 B40 加藤作次 C40
河辺 彰 K40 伊藤要蔵 B42
○ 清水益文 F44

支部長(22)

北海道 三田村好矩 F41
東北 ○ 羽鳥明満 C57
東京 ○ 浅井英利 E58
甲信越 若林俊樹 M56
静岡 石塚基一郎 C54
三河 ○ 岩田忠三 M59
名古屋 ○ 小山裕康 A54
尾張 伊藤美保 D44
岐阜 ○ 各務剛児 C53
北陸 竹田敏洋 B41
三重 里 宏幸 C56
大阪 ○ 堀口大輔 C59
兵庫 高柳 誠 C60
岡山 野村幸宣 C54
広島 大田一夫 C47
山口 岸田潤三 C58
山陰 糸賀輝穂 C51
香川 藤川 智 E52
徳島 福井雅彦 A52
愛媛 馬越陽一郎 C58
高知 山崎健司 A54
九州 吉村 尚 A50

代議員(88)

北海道(1) 佐川正人 C53
東北(1) 鈴木 聡 C57
東京(7) 入矢桂史郎 C52 ○ 鹿島 孝 A59
三浦太朗 EC⑬ 大久保智明 D57
戸澤宏一 M55 飯沼義昭 B46
北村明弘 K53
甲信越(2) 若林俊樹 M56 樋口 順 C48
静岡(2) 玉木利幸 C52 向坂直久 Es60
三河(12) ○ 川口貴弘 F⑮ ○ 神谷貴臣 ZW⑩
沼澤成男 M59 岩田忠三 M59
佐藤文昭 ZK⑤ 出崎 亨 K61
○ 澤田義政 K63 服部和弘 E62
大野一成 ZK⑤ ○ 北 朋弘 FB⑥
伊藤雅幸 D⑨ ○ 小川寛徳 D⑤
名古屋(25) 兼岩 孝 C54 和田亮一 C62
藤田素弘 C60 山口 啓 C49
井澤知且 A51 杉戸厚吉 A53
武内博明 Mb① 富田庸公 Mb①
三宅正人 E60 ○ 青木 睦 EJ④
○ 大塚孝信 CS⑳ 森川民雄 W45
○ 吉木 満 W56 犬塚正憲 D48
中野達夫 G50 ○ 伊藤龍美 D60
橋本 忍 ZY② 野々山尚志 Y63
小坂井孝生 K49 ○ 横山雅行 K52
守田賢一 F47 大鑄史男 F49
西村良博 F48 横山淳一 FB⑥
犬塚信博 J62
尾張(7) 伊藤美保 D44 服部重夫 Y43
小久江智之 M53 山口初一 E56
大竹昌志 C54 小木曾春美 M55
魚住弘一 D53
岐阜(7) ○ 桐井光人 C59 田中清之 A54
堤 喜治 M45 ○ 田中秀和 Es48
山田孝夫 W48 笹島 康 Y39
兼松克司 K42
北陸(2) 黒田 茂 M47 吉岡正盛 B58
三重(4) ○ 里 宏幸 C56 浅野俊介 Y60
新堂紳一郎 C58 満仲朗夫 C59
大阪(5) 川越英二 E47 ○ 坪田博隆 M51
西川嘉一 G50 ○ 小山 明 A59
堀口大輔 C59
兵庫(2) ○ 西川芳久 C47 當舎良章 SC③
岡山(2) 虫明正博 K59 小倉俊彦 A58
広島(1) ○ 大田一夫 C47
山口(1) 川上為夫 W42
山陰(1) 湊口民弥 A52
香川(1) 前川浩一 SC⑩
徳島(1) 福井一博 A46
愛媛(1) 小松浩樹 CM⑳
高知(1) 山内 健 C53
九州(2) 平野富広 F58 吉村 尚 A50

○: 新任候補者

退任役員

理 事	浅井慶一郎	C56	刑部道博	D54	岡崎格郎	A46
	長谷部 勲	K56	内藤克己	A43	森川民雄	W45
	大鹿秀正	F47				

参 与	清水益文	F44
-----	------	-----

顧 問	(故) 日比貞雄	W35
-----	----------	-----

支部長

(東北)	齋藤文伸	A51
(東京)	刑部道博	D54
(三河)	長谷部 勲	K56
(名古屋)	浅井慶一郎	C56
(岐阜)	大久保陽一	Es44
(大阪)	岡崎格郎	A46

代議員

(東京)	浅井英利	E58				
(三河)	長谷部 勲	K56	吉木 満	W56	橋本直樹 II D⑤	佐々俊祐 Ma⑩
	澤田昌克	D61				
(名古屋)	岸 直希	EM⑫	後藤富朗	EC⑨	伊藤哲夫	W45
	小山敏幸	K61			村瀬由明	D53
(岐阜)	各務剛児	C53	沢野 勝	E43		
(三重)	(故) 黒木清篤	D52				
(大阪)	伊藤俊明	M45	西岡 裕	B50		
(兵庫)	佐久嶋 拓	EI⑫				
(広島)	菱川躬行	E34				

2022年度（令和4年度）事業報告

はじめに

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大3年目となり、「with コロナ」に対応した同窓会活動を行う方針としました。

5月に開催した定期総会、11月に開催した支部長会議ともに、会場での対面参加とリモートによる参加のハイブリッド方式により開催しました。定期総会では、3年越しとなっていた伊奈ダイハツ元会長の特別講演会を開催することができました。OB・OG トップセミナーは、本会場以外にも複数会場を用意し、多数の現役学生が分散受講しました。

支部総会については東京、名古屋、大阪、尾張などの大規模支部で対面又はハイブリッドで開催されましたが、中小規模の支部については、北海道、徳島、広島、を除きほとんどの支部の総会が中止となりました。それぞれの地方の事情、感染拡大状況と開催時期との関係により、やむを得ず中止した支部もありました。

名古屋工業会が全学同窓会であることを明確に位置付けるため、総会にて定款の改正を行い、登録会員及び正会員の定義を明文化しました。

全学同窓会の取組の一環として、支部要件の緩和を決定し、希望がある地域の新支部の発足について、協議を開始しました。

単科会との連携の強化を目指し「連携会議」を発足させました。

役員体制の充実のため、理事定数及び副理事長定数を増やすとともに、三河支部長を新たに副理事長に迎えました。

新たな取組みとしては、工大祭において卒業生、在学生、父母等、誰でも参加できる行事として、「名工大歴史館」を開催し、200名を超える来館者がありました。

昨年度から着手したホームページのリニューアルが完了しました。

そのほか、大学支援、学生支援については感染前の水準で実施しました。

財政については、主要な財源となっている新入生からの終身会費について大学と調整するとともに、学長のリーダーシップによるアートフルキャンパス構想に賛助しました。

1 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）

2022年度海外研修・留学のために渡航した32名の学生に対し、支援を行った。

(2) 教育研究支援（大学の教育研究活動に対する支援）

ア OB・OG トップセミナーについて

在学生の受講は3年ぶりに対面を原則として開催し、現役学生526名が会場で受講し、卒業生25名がリモートで受講した。

イ 公開講座について

名古屋支部が大学に協賛し、「日本の産業を支える港湾」と題するテーマで開催した。

ウ 学生論文賞について

若手研究者支援として学生論文賞を創設し、優れた研究成果を上げた大学院生、4名を褒賞した。

エ 定年退職教職員について

定年退職教職員4名への感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援（学生の人材育成に対する支援）

ア 学生の海外研修・留学支援

国際化推進事業として、海外研修・留学する32名の学生を支援した。（再掲）

イ 名古屋工業会賞の授与

学長から推薦のあった成績優秀な学生19名に名古屋工業会賞として表彰状と記念品を贈呈した。

ウ 経済的に支援を必要とする者への給付型奨学金の授与

経済的に支援を必要とする7名の学生に名古屋工業会給付型奨学金を継続して支給した。

- エ 留学生後援会への支援
留学生後援会を支援した。
- オ 挑戦的課外活動支援金の給付
全国レベルの成果のみではなく、地方レベルの成果を上げる部活や新型コロナ禍でとくに厳しい活動を迫られている部活にも広く支援を行った（10団体）。
- カ 工大祭の支援
3年ぶりに対面での開催となった工大祭を支援した。
- キ 鶴桜会の支援
名古屋工業大学女性卒業生で組織する鶴桜会（OG会）を支援した。
（再掲）
- ク 就職活動支援（学生会員）
単科会が主催した卒業生と学生の懇談会について、支援した。
- ケ 在学生及び保護者に対する大学の各種情報提供の支援
会誌「ごきそ」509号を学生会員に配布し、会員・保護者への情報提供を行った。
- (4) 大学基金への寄付について
学長からの依頼に応え、アートフルキャンパス構想を支援するための寄附を行った。（再掲）
本会ホームページ、会誌ごきそ上で、大学への寄附を呼びかけた。
- (5) その他
各種会議において、大学への寄付を要請するパンフレットを配布した。

2 名古屋工業会の更なる充実のための事業

- (1) 会員増強活動
 - ア 会員拡大に向けた支援
会員拡大に向けた取り組みとして、正会員のほか登録会員の参加についても、行事支援の対象とした。
 - イ 卒業生への活動
3年ぶりに学位記授与式において、工業会賞を授与するとともに理事長が卒業生・修了生にメッセージを伝えた。
 - ウ 新入生への活動
2023年度入学式においては、新入生の父母に工業会の紹介を行った。
 - エ 在学生への活動
OB・OG トップセミナーを通じ、2年生の多くの学生に名古屋工業会を紹介した。（再掲）
 - オ 挑戦的課外活動支援金の公募制による認知度アップについて
挑戦的課外活動支援金については、公募方式により10団体を支援することを通じて、工業会の認知度をアップした。（再掲）
 - カ 正会員の状況
新規入会者
終身会員23(27)名、年度会員2(4)名、 合計25(31)名
新入学生（一括納付による終身会員）
2023年度 854名 2022年度 882名
2021年度 866名 2020年度 900名
OBの2022年度末の会員状況
対象者 70,519 (69,575)名、会員 18,361 (17,489)名
会員入会率；26.0 (25.1)%
内訳 終身会員 15,873 (14,972)名、年度会員 2,488(2,517)名

(2) 活性化活動

ア 会員交流及び広報活動

(ア) 会誌「ごきそ」の発行

会員に対する大学情報の提供と会員間交流情報の媒体として、会誌「ごきそ」を隔月に発行した。

(イ) 学生会員への会誌「ごきそ」の配布

学生会員の父母等への会誌の配布を通じて、工業会活動を周知した。

(ウ) 情報提供の場としてのホームページの充実

名古屋工業会として、品格があり、初めてアクセスした人でもわかりやすいホームページを目指し、リニューアルを行った。

(エ) 単科会情報の掲載

単科会からの依頼にもとづき、単科会の記事をホームページに掲載した。

(オ) 会員情報・優待制度の充実

引き続き、会員情報・優待制度の充実に努めた。

イ 支部活動

(ア) 支部長会議の開催

支部長会議は対面とリモートのハイブリッド方式で開催した。22支部中、12名の支部長が対面で参加し、6名の支部長がリモートで参加した。各支部の課題などについて活動交流が行われた。

(イ) 支部総会開催状況の調査

支部からの要望に基づき支部総会の開催状況について、全支部対象のアンケート調査を行った。アンケート結果は、支部長会議で検討を行った。

(ウ) 支部総会への役員派遣について

対面開催された支部総会については本部役員を派遣した。

ウ 特別講演会について

新型コロナウイルス感染拡大のため、2年間中止していた特別講演会を開催した。

講師：ダイハツ(株)元会長伊奈功一、中部産業連盟会長

エ 鶴桜会の支援

名古屋工業大学女性卒業生で組織する鶴桜会(OG会)を支援した。(再掲)

オ 記念品の贈呈

(ア) 叙位叙勲者および国家褒章受賞者に記念品贈呈を郵送した。

紫綬褒章 神取 秀樹

瑞宝中綬章 松井 寛

瑞宝中綬章 尾中 証

瑞宝中綬章 山根 隆行(C50)

(イ) 卒業満70、60、50、40周年に該当する正会員に記念品贈呈

60年68名、50年66名、40年144名

カ 単科会を含む会友との連携

全学同窓会として、単科会との連携の強化をめざし「連携会議」を開催し、各単科会の実情を把握するとともに、単科会からの要望を受けた。

3 全学同窓会初年度の取り組み

(1) 「登録会員」の行事参加への支援

各種行事への「登録会員」の参加を促すとともに、「正会員」への入会の契機をつくるため、「登録会員」の支部行事への参加について行事支援金の支出を行った。(再掲)

(2) 支部要件の見直し

支部要件を見直すとともに、支部設置の希望がある地域について、当該地域の会員と具体的な協議を開始した。

- (3) 工大祭における「名工大歴史館」の開催
卒業生が誰でも参加できる「名工大歴史館」を新たに工大祭期間中に開催し、200名を超える入場者があった。
 - (4) 単科会との連携会議の開催
単科会との連携を強化するため、「連携会議」を設けた。(再掲)
- 4 名古屋工業会の将来に向けた基盤整備
- (1) 財政について
 - ア アートフルキャンパス
学長からのアートフルキャンパス構想支援要請に応えるため寄附を行った。(再掲)
 - イ 新入生からの終身会費の継続的な収納の確保
主要な財源となっている新入生からの終身会費の継続的实施について、大学との調整を行った。
 - ウ 工業会館跡地の利用
名古屋工業会館跡地に設置した駐車場の運用状況を把握し、必要な調整を行った。
 - (2) 組織体制の整備
 - ア 役員体制の整備
理事定員10名を12名に、副理事長定員4名を5名に増員するとともに、三河支部長を副理事長に迎えた。
 - イ 役員交代についての方針
役員の「交代期」を迎え、年齢、単科会のバランス等に配慮しながら新たな役員体制を構築した。
 - ウ 事務局体制について
事務局体制の継承のため、大学との調整を行った。
 - (3) データベースの整備
新規の会員の情報について、着実にデータ処理するとともに、データベースの構築と維持方法について、検討した。
 - (4) その他
各種災害のリスクに備えるため、大学が実施する防災訓練などに積極的に参加した。
- 5 大学連携活動の検討
- (1) 大学の卒業生連携室の協力を得て、単科会との「連携会議」、「名工大歴史館」を開催した。(再掲)
 - (2) 工業会のデータベースの情報更新については、大学の卒業生連携室との日常的な情報交換により実施した。
 - (3) 大学の意向を踏まえ、大学が進める基金活動に積極的に協力するとともに、学長からのアートフルキャンパス構想支援への強い要請に応えるため、寄附を行った。(再掲)
- 6 その他
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、大学が中止している行事に代わり、卒業生が誰でも参加できる行事として、新たに「名工大歴史館」を工大祭期間中に開催し、200名を超える入場者があった。(再掲)

2022年度収支決算書

(2022年4月1日から2023年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘 定 科 目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	6,037,631	6,145,000	△ 107,369
(1) 財産利子収入	1,823,831	1,930,000	△ 106,169
(2) 会誌広告収入	399,000	400,000	△ 1,000
(3) 駐車場賃貸収入	3,814,800	3,815,000	△ 200
(4) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	71,505,000	73,550,000	△ 2,045,000
(1) 入会金収入	51,000	30,000	21,000
(2) 年度会費収入	2,364,000	2,400,000	△ 36,000
(3) 終身会費収入	68,960,000	71,000,000	△ 2,040,000
(4) 賛助会費収入	130,000	120,000	10,000
3) 雑収入	33,873	35,000	△ 1,127
(1) 雑収入	33,873	35,000	△ 1,127
4) 積立預金取崩収入	3,000,000	0	3,000,000
5) 前期繰越収支差額	0	0	0
(1) 前期繰越収支差額	0	0	0
収入の部合計	80,576,504	79,730,000	846,504

注1 学部生・大学院生の入会の減

注2 会員入会減による補填、名古屋工業大学基金の増

2. 支出の部

(単位:円)

勘 定 科 目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	59,559,096	56,530,000	3,029,096
(1) 大学支援事業	33,840,110	27,950,000	5,890,110
ア 教育研究支援	7,206,760	2,250,000	4,956,760 ※注1
イ 学生支援	26,633,350	25,700,000	933,350
ウ その他支援	0	0	0
(2) 工業会の充実のための事業	24,197,768	28,280,000	△ 4,082,232
ア 会員増強活動	7,646,334	8,000,000	△ 353,666
イ 広報活動	7,713,011	10,000,000	△ 2,286,989
ウ 支部活動	6,934,975	9,200,000	△ 2,265,025 ※注2
エ 会員慶弔	1,843,448	910,000	933,448
オ 講演会	60,000	170,000	△ 110,000
(3) 収益事業	1,521,218	300,000	1,221,218
ア 駐車場賃貸	1,521,218	300,000	1,221,218 ※注3
2) 管理費	22,015,033	23,200,000	△ 1,184,967
(1) 総会経費	1,803,475	1,500,000	303,475
(2) 管理諸経費	17,211,558	18,700,000	△ 1,488,442 ※注4
(3) 指定定期預金及債権(終身会費)	3,000,000	3,000,000	0
3) 次期繰越収支差額	△ 997,625	0	△ 997,625
(1) 次期繰越収支差額	△ 997,625	0	△ 997,625
支出の部合計	80,576,504	79,730,000	846,504

注1 名古屋工業大学基金の増「アートフルキャンパス整備基金」(約500万円)

注2 新型コロナウイルス感染拡大の影響による支部総会等の中止

注3 固定資産税、法人税等の支出

注4 新型コロナウイルス感染拡大のため、交通費などの支出の減額

正味財産増減計算の部

2023年3月31日

(1) 増加の部

(単位：円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	△ 997,625	
	減価償却積立金増加額	245,748	
	退職給与引当預金増加額	400,000	
	終身会費引当預金増加額	3,000,000	
増加額合計		2,648,123	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	0	
	構築物償却費	218,218	
	什器備品償却費	27,530	
負債の増加	退職給与引当金増加額	400,000	
	終身会費引当金増加額	3,000,000	
減少額合計		3,645,748	
当期正味財産増減額		△ 997,625	
前期繰越正味財産額		242,624,549	
期末正味財産合計額		241,626,924	

貸 借 対 照 表

2023年3月31日

1. 資産の部

(単位：円)

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	小 科 目		
流 動 資 産	現 金 預 金	104,850,729	
流 動 資 産 合 計 (A)			104,850,729
固 定 資 産 特 定 財 産	調 査 研 究 助 成 積 立 預 金	10,565,784	
	減 価 償 却 積 立 預 金	4,354,785	
	退 職 給 与 引 当 預 金	3,755,191	
	特 別 修 繕 引 当 預 金	10,361,624	
	終 身 会 費 引 当 預 金	5,000,000	
特 定 財 産 合 計 (B)			34,037,384
そ の 他 固 定 資 産	土 地	33,524,344	
	構 築 物	2,094,128	
	什 器 備 品	88,516	
	投 資 有 価 証 券	86,104,078	
	差 入 保 証 金	100,000	
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計 (C)			121,911,066
固 定 資 産 合 計 (D) = (B) + (C)			155,948,450
資 産 合 計 (E) = (A) + (D)			260,799,179

2. 負債の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	小 科 目		
流 動 負 債		0	0
固 定 負 債	受 入 保 証 金	55,440	
	退 職 給 与 引 当 金	3,755,191	
	特 別 修 繕 引 当 金	10,361,624	
	終 身 会 費 引 当 金	5,000,000	
固 定 負 債 合 計 (G)			19,172,255
負 債 合 計 (H)			19,172,255

3. 正味財産の部

当 期 正 味 財 産 減 少 額		△ 997,625
正 味 財 産 (I)		241,626,924
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 (J) = (H) + (I)		260,799,179

財 産 目 録

2023年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I. 流 動 資 産		
1. 現金	768,961	
2. 普通預金（三菱UFJ銀行）	87,836,990	
3. 当座預金（ゆうちょ銀行）	15,244,778	
4. 定期預金（三菱UFJ銀行）	1,000,000	
流動資産合計	104,850,729	104,850,729
II. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1) 国 債（野村証券）	34,037,384	
特定資産合計	34,037,384	34,037,384
2. その他の固定資産		
(1) 土地 狭間町4番3 515.35 m ²	33,524,344	
(2) 構築物	2,094,128	
(3) 什器備品	88,516	
(4) 国 債（野村証券）	65,962,616	
(5) 愛知県公債（野村証券）	20,000,000	
(6) 金銭信託（みずほ信託銀行）	141,462	
(7) 差入保証金（セコム・八重洲倶楽部）	100,000	
その他の固定資産合計	121,911,066	121,911,066
固定資産合計	155,948,450	155,948,450
資 産 合 計	260,799,179	260,799,179
(負債の部)		
I. 流 動 負 債		
流動負債	0	
流動負債合計	0	0
II. 固 定 負 債		
受入保証金	55,440	
退職給与引当金	3,755,191	
特別修繕引当金	10,361,624	
終身会費引当金	5,000,000	
固定負債合計	19,172,255	19,172,255
負債合計	19,172,255	19,172,255
正味財産		241,626,924

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 加 川 純 一 殿

2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2023年4月24日

一般社団法人 名古屋工業会

監事 森 初 樹 

監事 川 村 信 之 

2023年度（令和5年度）事業計画

はじめに

2023年度は、新型コロナウイルス感染は続くものの、重症化の恐れが比較的少なくなり、感染症法上の分類が第2類から第5類へ移行されました。すでに名工大学内では、コロナ前と同様の授業方法がとられています。

名古屋工業会としては、各種イベントについて可能な限り対面で開催し、活発な議論や交流を図るとともに、Web会議システムを有効的に活用し、講演会の全国配信などのサービスに努めます。

名古屋工業会は、2023年度に理事長をはじめとする役員的大幅な交代を行います。新役員体制においても名古屋工業会と大学が密接な連携のもと、大学支援、学生支援を行い、信頼関係を築くことにより、工業会の安定的な運営に努めます。

「全学同窓会」として、全卒業生を包含する同窓会をめざし、活動を進めます。昨年度、開催した単科会との連携会議について引き続き開催するとともに、単科会と連携した取組みについて検討します。

昨年度緩和した支部要件に基づき、新たな支部設置について、引き続き調整を進めます。

支部活動の充実のため、支部長会議を開催します。支部行事への「登録会員」の参加について、行事支援金の支出を行います。

役員交代に伴う業務継承について、円滑に進めます。

新たな財源の確保について、新規事業活動も含め継続的に検討します。

1 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）

新型コロナウイルス感染の状況に応じて実施される大学の国際化推進事業を支援する。

(2) 教育研究支援（大学の教育研究活動に対する支援）

大学が実施する公開講座について、講師を派遣するほか、優秀な論文の作成者について、大学基金を通じ支援を行う。また、定年退職教職員への感謝状と記念品の贈呈を行う。

(3) 学生支援（学生の人材育成に対する支援）

本会の伝統として実施してきた優秀な学生への名古屋工業会賞の授与、経済的に支援を必要とする者への給付型奨学金の授与、学生の海外研修・留学支援（国際化推進事業支援と同一事業）を実施する。

また、課外活動として、挑戦的課外活動支援金の給付、「工大祭」の支援、就職活動支援を行うほか、留学生後援会、鶴桜会（OG会）の支援など学生及び卒業生への支援を目的とする団体を支援する。

先輩の人生、職業を知る重要な機会として「OB・OG トップセミナー」を実施する。

工大祭において、第2回の「名工大歴史館」を開催する。

(4) 大学基金への寄付

大学の強い意向を踏まえ、大学が進める大学基金の募金活動に積極的に協力するとともに、大学への寄附金の充実に努める。

(5) その他

大学支援にあたっては、支援の効果が上がるよう、弾力的に工夫して行う。

同期会、クラブOB会等種々の機会を通じた寄附土壌の醸成を行う。

2 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

卒業式、入学式等大学のイベントにおける入会活動など、在学生、卒業生に様々な機会をとらえて勧誘を行う。

昨年に引き続き、工大祭期間中に「名工大歴史館」を開催する。(再掲)

各種行事において、正会員への入会勧誘を行う。

正会員への入会の契機をつくるため、「登録会員」の支部行事への参加について、行事支援金の支出を行う。

(2) 活性化活動

ア 会員交流及び広報活動

会員交流及び広報活動については、会員交流の場としての隔月年6回発行の会誌「ごきそ」を引き続き充実させる。リニューアルしたホームページを活用し、最新の話題、単科会の話題などの掲載など、柔軟なWebページづくりに努める。

在学生の父母等への会誌「ごきそ」の配布を通じ、工業会活動の周知と入会勧誘を行う。

挑戦的課外活動支援金の募集を通じ、工業会の認知度を上げるとともに、未加入の学生に入会を案内する。

入学式など各種行事における学生の保護者への説明、「OB・OG トップセミナー」の保護者の聴講の機会提供などを行う。

会員証を基盤として、会員情報・優待制度の充実を行う。

イ 支部活動等

支部活動について、各支部の多様性に配慮しながら、引き続き財政等を通じた支援を実施する。

「登録会員」の支部行事への参加について行事支援金の支出を行う。(再掲)

全学同窓会に向けて、支部活動の強化を促す。そのため、本部と支部、支部と支部の対話の機会を設ける。(支部長会議など)

支部総会には可能な範囲で本部役員を派遣し、本部及び大学等の情報を提供する。

ウ 単科会を含む会友との連携

単科会との連携を強化するため、連携会議を開催し、共通の課題について連携し対応を図る。

3 全学同窓会の取り組み

(1) 各種行事への「登録会員」の参加を促すとともに、「正会員」への入会の契機をつくるため、「登録会員」の支部行事への参加について行事支援金の支出を行う。(再掲)

(2) 支部設置を希望する地域について、関係支部と協議の上、新たな支部の設置に向け調整する。

(3) 単科会との連携を強化するため、昨年度開始した単科会との連携会議を継続するとともに、単科会の要望に基づく支援策について検討する。

(4) 卒業後の住所把握のため、卒業生への働きかけについて検討する。

4 名古屋工業会の将来に向けた基盤整備

(1) 財政について

「指定定期預金及び債権（終身会員）」（終身会員の将来に向けた活動を確保するための積立）について、積み立てに努める。

新たな事業活動について検討するとともに、会費収入の在り方について検討する。

名古屋工業会館跡地に設置した駐車場の運用について、必要な調整を行う。

主要な収入源となっている新入生の終身会費の集金等の事務について、可能な範囲で協力する。

一般社団法人として、適切な法人会計について継続的に検討する。

(2) 組織体制の整備

役員交代に伴う業務継承について、円滑に進める。

事務局については、法人としての組織・財政の維持と情報化・高度化に対応できる職員の資質向上に努める。

(3) データベースの整備

住所把握のため、単科会との連携による卒業生への働きかけを検討する。

全学同窓会に相応しい、データベースの構築と維持方法について、検討する。

(4) その他

新型コロナウイルス感染症対応、各種災害対応、その他のリスクに備える危機管理体制について検討する。

5 大学連携活動の検討

大学支援事業に当たっては、卒業生連携室等と連携し実施する。また、大学との連携のもとデータベースの整備に努める。

大学の意向を踏まえ、大学が進める基金活動に積極的に協力するとともに、大学への寄附金の充実に努める。

6 その他

大学が中止している行事に代わり、昨年度開始した工大祭期間中の「名工大歴史館」について、引き続き開催する。（再掲）



総会風景



総会風景

2023年度収支予算書

(2023年4月1日から2024年3月31日)

1. 収入の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	2023年度予算(A)	2022年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	6,015	6,038	△ 23
(1) 財産利子収入	1,800	1,824	△ 24
(2) 会誌広告収入	400	400	0
(3) 駐車場賃貸収入	3,815	3,814	1
(4) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	73,600	71,505	2,095
(1) 入会金収入	50	51	△ 1
(2) 年度会費収入	2,420	2,364	56
(3) 終身会費収入	71,000	68,960	2,040
(4) 賛助会費収入	130	130	0
3) 雑収入	35	34	1
(1) 雑収入	35	34	1
4) 積立預金取崩収入	0	3,000	△ 3,000
5) 前期繰越収支差額	0	0	0
(1) 前期繰越収支差額	0	0	0
収入の部合計	79,650	80,577	△ 927

※ 2023年度借入限度額及び債務負担額についての該当事項はありません。

2. 支出の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	2023年度予算(A)	2022年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業費	55,500	59,559	△ 4,059
(1) 大学支援事業	28,950	33,841	△ 4,891
ア 教育研究支援	2,250	7,207	△ 4,957
イ 学生支援	26,700	26,634	66
ウ その他支援	0	0	0
(2) 工業会の充実のための事業	25,000	24,197	803
ア 会員増強活動	7,000	7,646	△ 646
イ 広報活動	6,900	7,713	△ 813
ウ 支部活動	9,000	6,935	2,065
エ 会員慶弔	2,000	1,843	157
オ 講演会	100	60	40
(3) 収益事業	1,550	1,521	29
ア 駐車場賃貸	1,550	1,521	29
2) 管理費	24,150	22,015	2,135
(1) 総会経費	3,150	1,803	1,347
(2) 管理諸経費	18,000	17,212	788
(3) 指定定期預金及債権(終身会費)	3,000	3,000	0
3) 次期繰越収支差額	0	△ 997	997
(1) 次期繰越収支差額	0	△ 997	997
支出の部合計	79,650	80,577	△ 927

ホットライン

表彰者紹介

2022年度叙位・叙勲受章者は以下のとおりです。

5月27日の名古屋工業会の総会で、工業会からの表彰を行いました。

「瑞宝小綬章」

(文部科学行政への功労)

下村 和生



【学 歴】

1973年 3月 名古屋工業大学機械工学科卒業

1975年 3月 名古屋工業大学工学研究科
修士課程機械工学専攻修了

【職 歴】

1975年 4月 動力炉・核燃料開発事業団

1990年 7月 科学技術庁安全調査管理官

1993年 4月 国際原子力機関（IAEA）上席調整官

2000年 7月 経済協力開発機構（OECD）

原子力機関安全担当次長

2005年 7月 文部科学省科学技術・学術政策局次長

2013年 8月 経済協力開発機構（OECD）

原子力機関事務次長

2016年 6月 （公財）核物質管理センター理事長（現職）

コメント：この度の瑞宝小綬章を大変うれしく思っております。文部科学行政及び国際機関における貢献が評価されたものと思います。今後とも、国際的に活躍できる者の育成に貢献していきたいと思っています。



交流コーナー

鑄物の歴史(その1)

文明とともに歩んだ鑄物～近代化への道のり

技術士 坪田 博隆 (M51)

1. 鑄物づくりのはじまり

鑄物の歴史は古く、紀元前4000年ころ、メソポタミアで始まったといわれている。メソポタミアの南部に国家都市を建設したシュメール人は、人類最古の絵文字を粘土板に残しているが、その中に鍛冶工や銅を意味する語がある。

この地方を流れるチグリス・ユーフラテス川上流は古代の銅鉱石の産地であり、青銅製の武器や装飾品がシュメール国王たちの墓から出土していることから、これが鑄物づくりの始まりといえよう。

紀元前2000年以降にふいごが発明され、エジプト・テーベの墳墓から出土したパピルスには、足踏みふいごで銅を溶かして、型に流し込み、いろいろな器物を作っている状況が示されている。

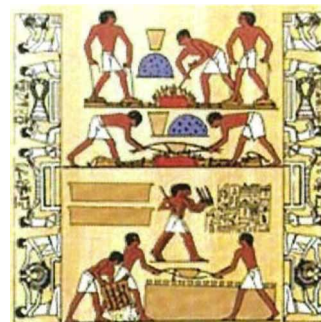


図1. パピルスにある鑄造絵 (BC4000年)

2. 中国古代の技術と日本への伝播

メソポタミア地方で始まった鑄物づくりの技術は次第にヨーロッパやアジアの各地に伝えられた。中国大陸でもかなり古くから鑄物が造られ、その技術水準も高かった。

日本へは、紀元前300年頃南朝鮮から北九州の海岸地帯に弥生式土器が伝わり、土器とともに初めて青銅器と鉄器が同時に中国大陸から朝鮮半島を経て我が国に渡来した。

日本で鑄物づくりが始まったのは、弥生時代中期(紀元前100～紀元100)で、作られた鑄物製品は、銅鐸、銅鏡、刀剣などであった。



図2. 銅鐸 (BC100年)

3. 仏教伝来と奈良大仏

6世紀の仏教伝来のころから仏像や仏具の鑄造が盛んになった。奈良の大仏は、大仏鑄造に2年余り、補鑄と仕上げに5年、塗金に5年、光背づくりに6年、大仏殿の建築に4年など、長い年月をかけて全部が完成したのは771年で、聖武天皇による建立詔勅発布から約30年かかった。各地に鑄物づくりが広がったのは、平安時代なかば以降といわれている。



図3. 奈良大仏 (771年)

4. 貨幣・梵鐘・和鏡

江戸時代までの日本の青銅鑄物としては、仏像・仏具のほかに貨幣・梵鐘・和鏡があげられる。

我が国最初の貨幣「和同開珎」は708年に作られた。豊臣秀吉は、幣制の統一を図るため銅貨「天正通宝」(1587年)、銀貨「文禄通宝」(1592年)を鑄造発行した。天保通宝は1835年に鑄造され、寛永通宝は1636年から鑄造された江戸時代の代表的な通貨である。

日本に梵鐘が伝えられたのは7世紀頃で、その後各地で作られるようになった。



図4. 天保通宝と寛永通宝 (1636年)

5. 鉄仏・茶湯釜・農具

鉄の鋳物は、4世紀頃からで、鉄仏、茶湯釜、鋤や鍬などの農具が主流であった。

製鉄は主に中国地方で行われ、溶鉱炉ではなく、「たたら」という独自の炉を使った。この時代の「たたら吹き」は原始的な製鉄法と思われるかもしれないが、19世紀中頃までは、能率の良い方法だった。経済的に効率が良いだけでなく、この和鋼の品質は世界でも群を抜いて優秀だった。



図5. 茶湯釜（1201年）

6. 近代化への先駆け

江戸時代になると青銅鋳物の大砲も作られるようになり、源保重による「大筒鋳之図」には製作風景が描かれている。

1850年代には、反射炉による鋳鉄製大砲の製造が始まり、江戸末期になって近代化の動きが活発となった。幕府は、オランダから技術を導入してキューポラを建設したが、これが近代化への先駆けとなった。



図6. 大砲（1850年）

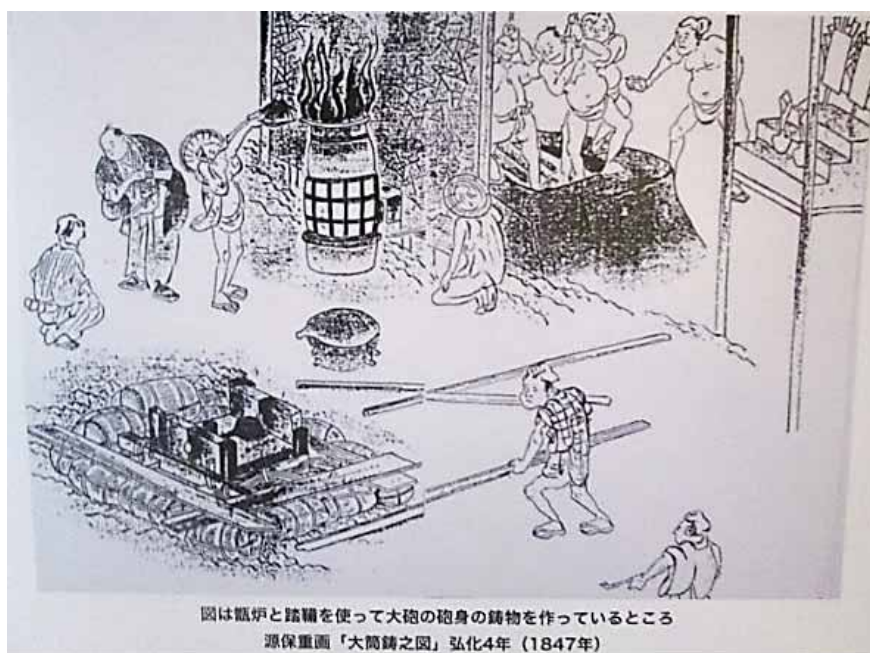


図7. 源保重 大筒鋳之図（1847年）



図8. 葦山の反射炉（1857年）

長い歴史の中で、鋳物はいつの時代も重要な役割を果たしてきた。その技術が今日まで受け継がれている。

交流コーナー

卒業して60年

江崎 俊夫 (M38)

私たちは1963年(昭和38年)3月当時の佐藤学長から「技術者になるよりも社会人として世の中に貢献する人物になれ」と励まされて卒業した機械科59名82歳～84歳の超高齢者のメンバーです。岡島くんに続き瑞宝中綬章の名誉を授かった高山和喜くんの叙勲祝賀会を兼ねて同窓会を4月19日～20日、京都にて開催しました。

一日目

11:00京都新幹線改札出口に出席者17名集合しましたが肥満白髪で本人確認困難者も数人ありました。貸切りのマイクロバスで南禅寺疎水へ、車中岩朝くんから琵琶湖疎水の説明を受けました。

明治時代琵琶湖から京都市内までトンネル・レンガ造り橋脚・川により湖水を導入して、現在なおこの疎水が活用されていること、またトンネル掘削工事は粗末な道具と測量器具で行われていたこと、工期短縮のため両側からの横堀と中央から両方向への横堀であるが接続部の段差が僅か5ミリ程度であったということ、改めて明治の高度な技術に驚嘆しました。

次に日露戦争についての会議が連日開かれた山県有朋の別荘無そう庵を訪問したのち宿泊地ホテルエミナースに向かいました。

夕刻ホテルの宴会場にて祝賀会が開催されました。会に先立ち物故者14名(24%)に黙とうを捧げ宴会に入り、まず高山くんの挨拶を受けました。「叙勲を受けたものの、コロナ禍で長年にわたり苦勞かけたワイフを宮中に案内する孝行もできず、通知を学長から受け取るのみであった。東北大学で研究することになったものの講師までの道のりは長く、生活苦は大変であった。」続いて奥さんの一言「主人は毎日勉強ばかりで友達は居ないものと思っていました。こんなに大勢の良き仲間が名工大時代に居るとは夢のようです。」このあと豊吉くんのビオ

ラ・黒岩くんのフルート伴奏で学歌「東海の邦のほまれに」ほか2曲全員合唱しました。

三々五々温泉で汗を流したのちホテルの広間に全員集合し二次会です。アルコール・お茶・つまみ持ち込みで和気あいあい談論風発です。

主な内容としては

- ・卒業時東京オリンピックの前年であることから東京プライム市場の企業に全員就職。当時初任給は2万円ラーメン50円の時代。
 - ・岡島くんは東大、高山くんは東北大学の大学院に進学、在学中は家庭教師を断り勉学に専念。
 - ・春休み冬休みには先生の温かい計らいで、教授室で紅茶をいただきながら追試を受験。
 - ・2年次には伊勢湾台風、3年次には安保反対デモで授業中断するも定期試験は予定通り。
 - ・学生時代は貧乏で授業は欠席してもアルバイトの家庭教師は皆勤、週2日で月5千円が相場、親の仕送りが遅れたら昼食抜き。
 - ・クラスメートで東海3県の出身者は少なく、北海道・東北・信州・山陰・四国・九州から集まった。このためお互いに実家を訪問するなど国内旅行経験豊富。
 - ・卒業直前9名が機械科教授に呼び出しを受け単位取得が必要最小限であることを指摘された。社会人では通用しないと厳しい叱責受。
 - ・社会に出てからは、3連休は正月のみで高度成長期を猛烈に仕事した。経済性・効率化・品質管理・事故防止の追究、単身赴任・海外出張・海外赴任等々・多忙な時期。
- 夢中で喋り気がついたら日付が変わっていた。

二日目

角屋もてなしの文化美術館を見学しました。揚屋建築としては日本最後の一軒となり、構造物・建具・調度品には贅の限りを尽くしており各種の格子・襖絵は貴重な存在です。江戸末期

新選組副長芹沢鴨等が飲酒し暴れた刀傷があちこちの柱に残っています。

昼食後京都鉄道博物館を見学、蒸気機関車・ディーゼル機関車・電気機関車・新幹線機関車を数十台展示してありマニアには垂涎ものです。集合写真撮影ののち現地解散となりました。

次回は出席者が高齢で減少することが予想され、今でも交流のある一年下の39年度卒のメンバーと共同で同窓会を開こうと話しています。名工大の教室を借り自分の出版した本を中心にパワーポイントで90分講演するという企画です。講師の候補は10人強います。しかし聴講生の参加人数が課題です。



南禅寺（琵琶湖疏水：水路閣）



名古屋工業会のHP 会員限定ページについて

会員限定ページをご覧ください。際にはパスワード入力が必要となります。

【パスワード:gokiso5298】

新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2023/4/7	朝	28	平田晃正	電気・機械工学専攻	知る 防ぐ 新型コロナ 感染者数下げ止まり 初の緊急事態宣言から3年
2023/4/9	朝	16	増田理子	社会工学専攻	マメナシ、アイナシ 自生地巡る観察会 尾張旭の城山公園
2023/4/10	朝	11	田山宏之	卒業生(F58)	23統一地方選：名古屋市議選当選者 / 愛知
2023/4/17	夕	6	山本勝敏	卒業生(M61)	東海の市長選立候補者 岐阜 多治見市
2023/4/18	朝	18	山本勝敏	卒業生(M61)	統一地方選2023 中部の市長選立候補者
2023/5/3	朝	19	名古屋工業大学	—	学ぶ 暮らしの中から考える 女子枠 ものづくりに感性を男性差別との声も
2023/5/6	朝	10	名古屋工業大学	—	最先端の研究 照らす夢の光 あいちシンクロトロンセンター10周年
2023/5/17	WEB		太田敏孝	名誉教授	<訃報> 名古屋工業大名誉教授・太田敏孝さん
2023/5/25	なごや東版朝	14	増田理子	社会工学専攻	多様な生物の環境 守ろう 瀬戸で「湿地サミット」
2023/5/29	朝	8	名古屋工業大学	—	学生交流や受験PR 連携 名古屋の6大学協定締結
2023/5/31	朝	15	名古屋工業大学	—	暮らしの中から考える 女子枠(みんなの声) リケジョ増やして/男子生徒に不公平
2023/6/1	朝	22	田中優子	基礎類	誤情報 信じ続けたい? 訂正記事のクリック避ける傾向 名工大など「確証バイアス」実証
2023/6/3	朝	14	平田晃正	電気・機械工学専攻	「熱中症予測」公立校へ提供 名古屋市消防局、リスクを数値化
2023/6/10	WEB		北川啓介	社会工学専攻	トルコ被災地に3時間で完成する「インスタントハウス」 名工大教授ら支援、石巻での悔しさ原動力に
2023/6/10	夕	7	北川啓介	社会工学専攻	被災地にすぐ家を トルコで名工大教授ら支援、石巻での悔しさ原動力に
2023/6/10	WEB		野球部	—	『弱者でもチャレンジャー』理系国立大 名古屋工業大学が2001年春以来の2部昇格! [愛知大学野球]
2023/6/11	朝	28	平田晃正	電気・機械工学専攻	診療経験の共有 課題 新型コロナ流行の実験 第2部後遺症

令和5年・大阪支部「春季歴史探訪の会」開催報告

北摂津巡り(石清水八幡宮・今城塚古墳など) 大阪支部「歴史探訪の会」横山誠・神戸孝

日 時：令和5年4月23日(日) 10:00～17:30

参加者数：23名

訪問地：①石清水八幡宮 ②木津川流れ橋 ③飛行神社 ④大山崎町歴史資料館 ⑤離宮八幡宮
⑥今城塚古墳 ⑦ハニワ工場公園

報 告：

今回は淀川沿いの北摂津地域の史跡、博物館を巡りました。石清水八幡宮で集合し、八幡宮と流れ橋から大山崎町、そして高槻市の今城塚古墳とハニワ工場公園を訪問しました。京都、大阪を結ぶ淀川の大動脈がある背景から、この地域では古代・中世・近世の歴史的事件・変動の舞台となっており、八幡市、大山崎町、および高槻市のボランティアガイドの方々の詳しい説明により、過去へタイムスリップをしたような充実した探訪となりました。参加された方々よりは、この地域を詳しく学ぶことで新たな視点からの歴史理解ができたとの感想もいただきました。

①石清水八幡宮

- ・男山山頂からは京都南部全体を見渡すことができ、山崎合戦の両陣営の位置関係や、桂川・宇治川・木津川の三河川がここで合流して淀川となる様子を確認し、まずはこの地域全体の地形が把握できました。
- ・エジソン記念碑ではエジソンが開発した白熱電球のフィラメントに、男山の真竹を使うことにより初めて耐久性が確保でき量産化された経緯の説明があり、今でも電機関係者が毎年参拝されるということです。
- ・石清水八幡宮は860年の創建で、武運長久の

神を祀る神社ゆえに源氏、信長、秀吉、徳川家の庇護を受け、現在国宝に指定されています。

- ・流れ橋は木津川にかかる木橋で、時代劇の映画撮影でよく使われ、藤田まことは橋名の石柱を寄贈し、「木津の流れ橋」という歌まで歌っており、時代劇に出ているような感覚も味わうことができました。

⑤離宮八幡宮

- ・中世に燈明に使われるエゴマ油をこの地域で生産し、特別な庇護を受けて販売特権を持ち、財をなしたと伝わる。「信貴山縁起絵巻」に描かれている山崎長者は、エゴマ販売によるこの地の金持ということです。

⑥今城塚古墳

- ・この古墳は継体大王の墓と云われ、後期古墳としては巨大な古墳です。戦国時代には三好長慶が砦としてこの古墳を利用し、その墳丘を削ったと伝わり、歴史の積み重ねを認識しました。

⑦ハニワ工場公園

- ・今城塚古墳には膨大な数のハニワがあり、これらのハニワがここの窯で焼かれたと云われています。

記：横山 誠(K47)・神戸 孝(K50院)



石清水八幡宮社殿にて



木津川流れ橋



ハニワ工場公園にて

第12回 名古屋工業会大阪支部交流サロンの開催(Web講演)報告

令和4年12月17日(土)に会員相互の親睦と交流を目的に、若手・女性部会主催の「第12回名古屋工業会大阪支部交流サロン(Web講演)」を開催いたしました。若手現役やシニアも含めた楽しい交流会となりました。

今回は、初参加の3名を含め、名古屋、横浜、石川、博多から参加があり、33名の多数参加となりました。懇親会はございませんでしたが、講演と質疑、懇談で約3時間の賑やかな交流会となりました。

講演タイトルは、『危機管理側面からの震災対応～製造業における熊本地震復興事例』と題して、平野春好(元豊田自動織機)様に、2016年4月16日発生の熊本地震における生々しい被害状況と自らの体験談をご紹介頂き、今後予想される南海・東南海地震への教訓と備えについてお話を頂きました。

Web会議が初めての方には事前に接続テストも実施いたしました。

記：坪田博隆(M51)

2、熊本地震震度7被災後の現地現物写真(2016年6月平野撮影)

①-1 震源地上益城郡益城町



2、熊本地震震度7被災後の現地現物写真(現地現物写真、2016年9月平野撮影)

②-4 熊本観光名所「熊本城」



2、熊本地震震度7被災後の現地現物写真(現地現物写真、2016年10月平野撮影)

②-10 観光名所「阿蘇神社」

After



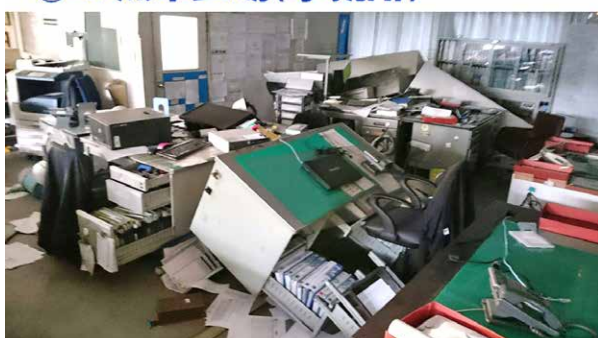
2、熊本地震震度7被災後の現地現物写真(現地現物写真、2016年4月平野撮影)

④-8 弊社熊本工場周辺



2、熊本地震震度7被災後の現地現物写真(現地現物写真、2016年4月平野撮影)

⑤-2 熊本工場(事務所)



2、熊本地震震度7被災後の現地現物写真(現地現物写真、2016年4月平野撮影)

⑤-6 熊本工場(工場内全景)



2. 熊本地震震度7被災後の現地現物写真（現地現物写真、2016年4月平野撮影）

⑤-16 熊本工場（注湯ゾーン）



2. 熊本地震震度7被災後の現地現物写真（現地現物写真、2016年4月平野撮影）

⑤-22 熊本工場（LPG置場）



3. 復旧に向けた具体的実施事項（現地現物写真、2016年4月平野撮影）

⑫ T社と協業で復旧活動を実施



4. 生産設備復旧に対する基本的な考え方（現地現物写真、2016年4月平野撮影）

② 情報の一元化、見える化

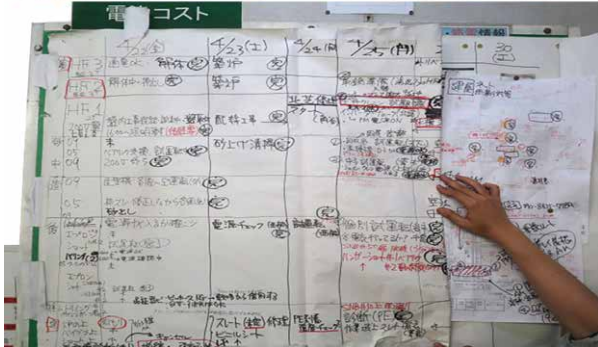


情報の共有化が大切。
毎日2回（10:00、15:00）リーダ会、
設備ごとに結果フォローと、
実施事項をその場で即決即断し、
掲示して**見える化**する



4. 生産設備復旧に対する基本的な考え方（現地現物写真、2016年4月平野撮影）

④ 情報の一元化、見える化、不協和音の防止



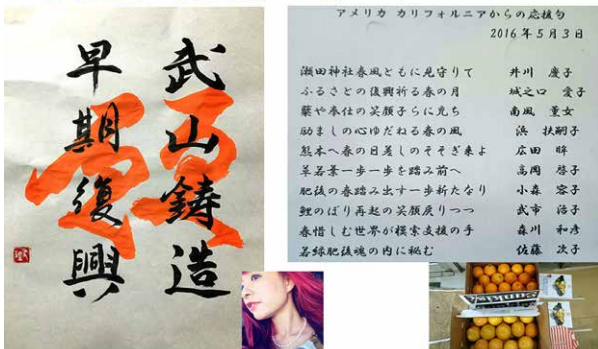
5. その他復旧に関する報告事項（現地現物写真、2016年4月平野撮影）

① 4月28日復旧完了



5. その他復旧に関する報告事項（現地現物写真、2016年5月平野撮影）

⑩ 精神的応援・心の支え



5. その他復旧に関する報告事項（現地現物写真、2016年9月撮影）

⑪ 自分の立ち位置で何ができるか？



5、その他復旧に関する報告事項（現地現物写真、2016年9月撮影）

⑮自分の立ち位置で何ができるか？



5、その他復旧に関する報告事項（現地現物写真、2016年9月平野撮影）

⑯自分の立ち位置で何ができるか？



5、その他復旧に関する報告事項（現地現物写真、2016年9月撮影）

⑰自分の立ち位置で何ができるか？



ありがとうございました

T社はじめ支援して下さい皆様方、
我々はこのご恩を一生忘れません



結び

天災は、忘れた頃にやってくる。第二の関東大震災、または南海トラフを震源とする中部巨大地震と津波に備える必要があると思います。この時、平常時に机上で考えた対策は役に立たないことは知っておくべきです。

ものづくりを整齐と良い流れで生産している時とは違う全く別の次元の戦略が必要となります。ダーウィンの言葉を私流に解釈すると、「最も強い会社が生き残るのではなく、最も賢い会社が生き延びる訳でもなく、唯一生き残るのは、エマージェンシーに対してフレキシブルに対応できる会社である。」

私の座右の銘は、「知行合一」で、「知って行わざれば、之れ未だ知らざるなり」です。どん

なに理論が素晴らしくても、重要な事は信念をもって実践をすること。信念無くして、立派な結果が出ることは無いと思います。そのため、「ああだこうだと言う前に、先ずやってみる、直ぐやる、きっちり正確にやる、やり切る」ということを私自身はものづくりの信念として守っています。

関東・中部・関西地区の皆様へ、今回の熊本地震を他山の石として下さい。南海トラフを震源とする、巨大地震と津波に備える必要があります。前述した対策項目がこれから講じる地震対策に少しでもお役に立てば幸甚至極です。

監修：平野春好(K50)

第13回 名古屋工業会大阪支部 交流サロンの開催(Web講演)報告

令和5年4月15日(土)に会員相互の親睦と交流を目的に、若手・女性部会主催の「第13回名古屋工業会大阪支部交流サロン(Web講演)」を開催いたしました。若手現役やシニアも含めた楽しい交流会となりました。

今回は、初参加の10名を含む、東京、横浜、大阪、博多から参加があり、40名の多数参加となりました。懇親会はございませんでしたが、講演と質疑、懇談で約2時間半の賑やかな交流会となりました。

講演タイトルは、『水の町江東区深川歴史散歩』と題して、G48内藤晶(横浜国立大学名誉教授)様に、現在お住いの東京都江東区深川について、徳川家康が江戸の都市づくりに取り組み、湿地帯であったこの地域を水の町として運河を開削して物流を盛んにし、大きく発展させてきたユニークな歴史を紹介していただきました。

Web会議が初めての方には事前に接続テストも実施いたしました。

記：坪田博隆(M51)

監修：内藤 晶(G48)

1. 水の町江東区深川歴史散歩

人が作り出した水の都市

隅田川と荒川に囲まれた江東地域内には、現在でも東西南北に無数の河川が巡っている。地域のそのほとんどが海面を埋め立ててできた平な低地である。

本講演では水の町江東区深川の発展の歴史を振り返る。



2. 東京都のなかで水の町江東区深川の位置

江東区は東京湾に注ぐ隅田川と荒川に挟まれた地域で皇居と隅田川の東側に位置する。深川地域は江東区の西側に位置する



出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社

3. 江東地域の海岸線の変化



現代



近世
江戸時代後期



中世以前
1590年以前



出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社

4. 江東区深川地域発展の歴史

- 1590年～：徳川家康が関東に入る。小名木四郎兵衛に命じて**小名木川**が開かれる。
- 1596年～：大阪からきた深川八郎右衛門が小名木川を中心に**隅田川沿いに本所の南に深川の地を開く**。深川の名は深川八郎右衛門に由来する。
- 1603年～：徳川家康が江戸幕府を開く。伊奈忠次に関東周辺の河川改修を命じた。その後、忠次、忠勝3代により**利根川東遷事業**が完成する。
- 1629年～：深川小名木川南側海岸線に**狛師町**が形成される。
- 1641年～：この年起きた江戸の大火による被害を避けるため、幕府は**木置き場**を隅田川東部から深川狛師町に移転した。
- 1657年～：明暦の大火で江戸の大半が焼失したことから幕府は隅田川東岸の本所深川の開発を促進し、特に幕府の旗本御家人の住む土地の開発を行った。このため、**北十間川、竪川、大横川、横十間川の開削**を行った。

5. 利根川東遷事業

1) 1590年に江戸・関東に国替えになった**徳川家康**の眼には江戸中心の河川を整備して、1) 水運、2) 水害防止、3) 農地開発の促進を構想した。

2) 家康の命により河川改修の事業を担ったのが**伊奈忠次**であった。河川改修事業は1603年に始まり、さらに忠治、忠勝の伊奈氏3代により1653年に利根川が東京湾から銚子河口へ流れる**利根川の東遷**が実行された。

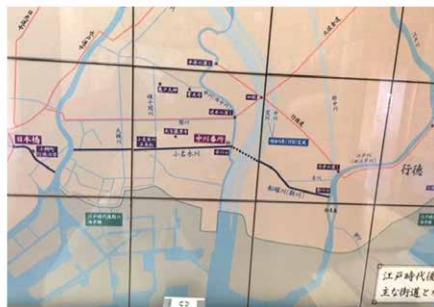


出典：<http://www.ne.jp/asahi/woodsorrel/kodai/tone/index.html>

6. 小名木川の開削

江戸と周辺をつなぐ川

1590年(天正18)に江戸入府後**徳川家康**は江戸の都市作りとして水のインフラの整備を進めた。その第一が小名木川の整備である。慶長年間(1596～1615)当時関東一の製塩地帯であった**行徳**から安全に江戸市内(日本橋行徳河岸)に塩を運ぶことを目的として小名木川は開削された。川の名は家康の命で開削にあたった**小名木四郎兵衛**からといわれている。



出典：江戸から行徳へ～小名木川・新川と中川番所～、江東区中川番所史料館

7. 明暦の大火後の深川の発展

小名木川の北側(本所・深川)の開発

江東の本格的な発展は、明暦の大火(1657年(明暦3))後の本所・深川の開発に始まる。江戸市内から火事から守るため、延焼防止の観点から市内の密度を下げ、市域の拡大を図った。その一環として本所・深川の開発が行われ、多くの大名屋敷や寺院が本所・深川へと移転した。



改選江戸大江図 (元禄15年、1702年)

8. 木場の発展

小名木川南側、門前仲町、木場の開発

江戸時代初期、木材業者らは茅場町や八丁堀など江戸の中心部に近いところにいた。しかし幕府は1641年の大火を契機に材木の安定的保管のため「木場」を形成することを考えた。

「木場」の条件には、市内に近いこと、水運に適していること、火事の心配がないことなどがある。適地として深川方面が挙がり、最初は佐賀・永代・福住あたりの永代島に作られた。その後、「木場」の拡大の伴い、再び移転となり、1701年(元禄14)に木場に落ち着き、その際多くの貯木場や水路が開削された。



門前仲町 本所深川絵図 (文久2年；1862年)

9. 小名木川入口(中川口)



名所江戸百景 歌川広重

出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社



10. 小名木川横十間川交差点付近



横十間川



グローバー橋



出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社

11. 小名木川隅田川出口付近



隅田川出口



万年橋

出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社

12. 小名木川隅田川出口南側

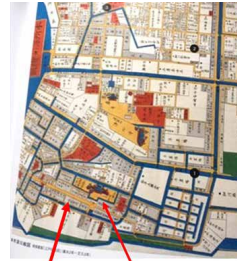


清洲橋＋スカイツリー



出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社

13. 門前仲町と富岡八幡宮



門前仲町 富岡八幡宮

本所深川絵図（文久2年；1862年）



富岡八幡宮鳥居



伊能忠敬像

14. 越中島公園



永代橋

越中島公園



東京医科歯科大越中島宿舍

出典：水の都市江戸・東京、陣内秀信著、講談社



企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げられたノウハウはDTPにおいて、特に不得意とされる版組みの書籍・表組みの異物も得意分野です。

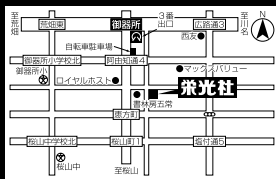
印刷

カラー印刷：2色刷り・1色刷り・特色刷り・品質・部数・ご予算に応じて提供いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太郎等の通常オフセット印刷に適合しないWindowsデータの出力ノウハウもありますのでご相談ください。

製本

目次・体裁記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・雑誌・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本でお困りの学生・法人の方、少ロットでもお手伝いします。

総合印刷の
有限会社 栄光社
〒466-0035 名古屋市中区栄5丁目4番地 2F
TEL. (052) 848-6148
FAX. (052) 848-6518
URL <http://www2.ocn.ne.jp/~eik/>
E-mail eikou@lime.ocn.ne.jp



60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座 一材料、加工、設計、電気・電子、組込コンピュータ、各種要素技術…
品質系全30講座 一DRBFM、なぜなぜ分析など各種未然防止手法
マネジメント系全10講座 一経営品質、もしどらーダシッブ、プロジェクト管理…

《Benchmarking》電動化・自動運転化コンポーネント等

WORLDTECH

株式会社

ワールドテック

代表取締役 寺倉修 (F50)

〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目28番12号 名古屋若宮ビル6階
TEL : 052-211-7861 E-mail: solutions@worldtech.co.jp

あなたも「ごきそ」の表紙を 飾ってみませんか?

一般社団法人名古屋工業会（名古屋工業大学全学同窓会）では、会誌「ごきそ」を幅広い年代の方が交流できるツールとして活用いただけるよう、同窓生の皆様から随筆や紀行などの原稿と共に、表紙に掲載する写真の投稿をお待ちしております。

お気軽にお問合せください。

E-mail : gokiso@lime.ocn.ne.jp

(名古屋工業会事務局宛)



広報委員会

委員長 大鑄 史男 (F49)

学内

学外

吉田奈央子

祖父江貴宏 (SC④)

濱田 晋一 (SC②②)

松本 浩明 (SC①⑨)

牧野 武彦

浅井 一仁 (IIM②①)

後藤 富朗 (EJ⑨)

廣瀬 光利 (E50)

杉本 英樹 (ZW⑥)

吉木 満 (W56)

安井 孝志 (D62)

森 真由美 (IID⑤)

本多 沢雄 (ZY⑥)

野々山尚志 (Y63)

小坂井孝生 (K49)

大矢 泰正 (K52)

米谷 昭彦 (F60)

寺倉 修 (F50)

横山 淳一 (FB⑥)

入倉 則夫 (B47)

菅田 愛美 (名古屋工業大学 企画広報課)

一般社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか

「ごきそ」は隔月発行し、会員・広告主・関係官庁・各学会・大学・図書館等に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

※広告を募集中です。お問い合わせは名古屋工業会 E-mail : gokiso@lime.ocn.ne.jp までお願いします。